

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）

(実施期間：平成 30～令和 5 年度)

実施機関：国立循環器病研究センター（総括責任者：小川 久雄）

## 取組の概要

すでに行っている取組は、先進的な取組をしている近隣の大学からも指導を受けながら継続・拡充させる。女性研究者（特に若手）の海外研究機関への派遣を助成し、女性研究者の研究力向上を上位職登用へつなげる。ポジティブアクションとして、国循が女性を積極的に登用する方針であることを明確にして、女性研究者を積極的に任期付きで医長・室長以上に新規採用する。ダイバーシティ研究環境に関連するプログラムの開発として、「医師・研究者の働き方と医療の質や安全性、健康との関係」を調査する。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
S	s	s	s	a	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

## (2) 評価コメント

理事長のリーダーシップの下、女性研究者及び外国人研究者を取り巻く研究環境整備を進めるとともに、長期・短期の「海外派遣助成」、「国際共同研究助成」、「スタートアップ研究助成」、様々な研究スキルアップ支援を通じて女性研究者の研究力強化を図り、女性研究者の採用促進、科研費新規採択率や採択額の大幅な上昇、国際的に活躍できる女性研究者の育成、上位職への積極的な登用を進めたことは高く評価できる。理事長をはじめ機関執行部、「ダイバーシティ人材育成支援室」、事務部門、病院・研究所の部門が密接に連携し、機関全体として女性研究者の活躍を推進し、また、「医師・研究者の働き方、医療の質や安全性」に係る調査を実施し、女性研究者のみならず機関構成員全体の働き方改革に取り組んだことは高く評価できる。持続可能な取組として女性研究者の活躍促進の取組を継続、発展させ、国際的に活躍できる女性研究者の育成を今後も進めることを期待する。

- **目標達成度**：新規採用研究者の女性比率を 30%とする実施期間終了時の意欲的な目標を、実施期間 2 年度目に前倒しで達成したこと、また、海外派遣や研究助成を通じて女性研究者の研究力向上を図る取組を積極的に進め、指導者地位（部長、室長相当）の女性比率に係る年度毎の目標を達成したことは高く評価できる。
- **取組**：「海外派遣助成」（長期・短期）を創設し、10 名の女性研究者を海外へ派遣し、長期海外派遣者 2 名に対しては代替者の雇用助成を行った。さらに、海外留学の経験のある女性研究者を対象とした「国際共同研究助成」、新たに上位職に登用された女性研究者を対象とした「スタートアップ研究助成」を創設し、国際的に活躍できる女性研究者の育成を進め、また、生活情報や子育て支援情報を英語で発信するなど、外国人研究者の支援を積極的に進めたことは高く評価できる。

- **取組の成果**：女性研究者の研究力が向上し、科研費新規採択率が1.9倍、採択額が2.8倍に大きく上昇した。また、海外留学を経験した女性研究者6名が7件の国際共同研究を展開した。さらに、海外派遣を受けた女性研究者2名が上位職への昇任を果たし、研究スキルアップ支援を受けた女性研究者1名が教授として大学へ転出しており、研究力向上の成果として高く評価できる。
- **実施体制**：理事長のコミットメントにより、機関執行部、理事長直轄の「ダイバーシティ人材育成支援室」、事務部門、病院・研究所の部門が密接に連携し、機関全体として女性研究者の活躍促進を図る盤石な体制を構築したことは評価できる。
- **今後の進め方**：補助期間終了後も、オープンイノベーションセンターを活用した自己資金の調達等の工夫により自主経費を確保し、女性研究者の海外派遣を含めこれまでの取組を継続して実施する計画であり評価できる。また、上位職登用の人事選考委員会に段階的に女性を参画させ、また、人事選考の書類審査の段階で女性候補者を含めるよう努めることを理事長連絡会議で決定しており、女性研究者の雇用促進、上位職登用促進に係る最終目標の達成が期待できる。